

金融と経済を考える 高校生小論文コンクール

〔金融と経済の明日〕 高校生小論文コンクールから名称変更しました



よりよい
将来のために、
いまやるべき
ことは…



金融広報中央委員会は、
全国の高校生・高等専門学校生等を対象に
「金融と経済を考える」小論文を
募集します。
みなさんがだんたん考えていることや、
将来に対する思いをまっぴらご
いじり募ってください。

9月20日
しめきり!!

※消印有効

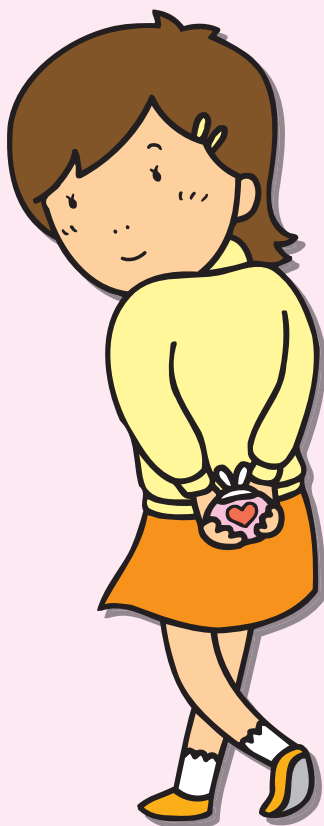
特選5編 (賞状と奨学金5万円)

金融担当大臣賞/文部科学大臣賞/日本銀行総裁賞/全国公民科・社会科教育研究会会長賞/金融広報中央委員会会長賞

秀作5編 (賞状と奨学金2万円)

- 佳作50編(賞状と図書カード5千円分)
- 学校賞(特選受賞者在籍校)5校(賞状と図書カード1万円分)

テーマを参考にして、小論文の内容に合わせたタイトルを付けてご応募ください。



① あなたのライフプランと働くことについて考えよう

あなたは将来どんな職業に就き、どのような仕事に携わりたいですか。希望をかなえるためには、今後何をすべきでしょうか。手に職を付けること、会社で働くこと、起業することなど、社会に出て働く姿を想像して、あなたのライフプランを資金計画も含めて組み立ててみましょう。

② 日本のこれからを考える

現在の日本経済には、少子高齢化の進展、労働力人口の減少、政府債務残高の増大、若年層を中心とする雇用問題など、様々な問題があるといわれています。また、新興国の経済力の高まりなどを背景に、海外との関わりも変化しています。これからの日本はどのような経済社会を目指すべきでしょうか。具体的な問題とその克服に向けたアイデアを中心に、あなたの考えをまとめてみてください。

③ 日本経済を活性化させる将来有望な産業とは

新エネルギーの利用や、環境に優しいエコ商品、ユニバーサルデザイン、あるいはゲームやアニメなどのコンテンツ産業等、新たな経済活動が活発になってきています。また、地域おこしなど地方を活性化させようとする動きも各地で見られます。あなたが注目するものについて、その特徴をまとめて将来有望であると考えた理由を述べてみましょう。

④ 消費者としてのルール

ものを買う、サービスを利用するなど、消費者として行動する際に、あなた自身やあなたの家族で決めているルールがありますか。また、消費者トラブルの一例をとりあげ、そのような思わぬトラブルに巻き込まれないためにどうすればよいのかまとめてみましょう。

⑤ 自由テーマ

上記以外のテーマで、授業で学んだこと、ニュースで得た情報などをもとに、あなた自身の体験を踏まえながら私たちの暮らしに関連する金融と経済について、考えをまとめてみましょう。

第10回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール 募集要項

〔応募資格〕 高校生、高等専門学校生（3年生まで）、高等専修学校生

〔賞〕 ●特選 5編（賞状と奨学金 5万円）

金融担当大臣賞 / 文部科学大臣賞 / 日本銀行総裁賞 / 全国公民科・社会科教育研究会会長賞 / 金融広報中央委員会会長賞

●秀作 5編（賞状と奨学金 2万円）

●佳作 50編（賞状と図書カード 5千円分）

●学校賞（特選受賞者在籍校）5校（賞状と図書カード 1万円分）

〔締め切り〕 2012年9月20日（木）※消印有効

〔発表〕 12月上旬、金融広報中央委員会ホームページ（<http://www.shiruporuto.jp/>）などで発表。

〔送付先〕 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル内郵便局留

「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール係

※インターネットの専用サイトからも応募できます。下記アドレスに接続し、画面の指示に従って応募フォームにより送信してください。<http://www.ron2012.jp/>

〔問い合わせ先〕 金融広報中央委員会コンクール事務局 TEL.03-3212-6165（土・日・祝日を除く10時～17時）

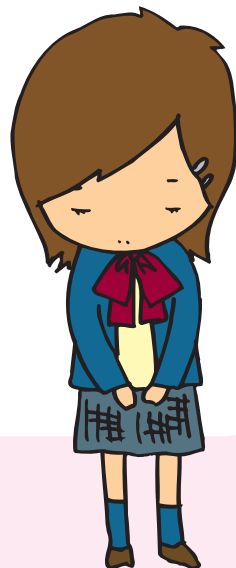
金融広報中央委員会コンクール作品募集ホームページ <http://www.ron2012.jp/>

小論文指導にあたり、先生方から生徒たちへ伝えてほしいこと。

金融教育は、現実の社会の中で生きていくのに必要な金融・経済などの知識や、お金を適切に取り扱う態度を身につけることなどを目的としています。この金融教育は「生活設計・家計管理」「経済や金融のしくみ」「消費生活・金融トラブル防止」「キャリア教育」の4つの分野に分けて整理することができ、「生きる力」の育成にもつながります。小論文を書くにあたっては、生徒たちへそれぞれのテーマに設定されているヒントを参考に、事実関係やデータを調べて自分の考えを論じるようご指導ください。

自分の将来のために、いま考えよう!

次代を担う高校生にとって、金融や経済について考えることは、これから社会とどう関わって生きていくのかにつながる大きなテーマです。同世代の仲間の考えを聞き、自らの思いを語り、将来の姿を描いてしっかり歩んでいきたいですね。金融広報中央委員会は、高校生の皆さんに、「金融と経済を考える」小論文を募集します。昨年は、全国から1,579点の作品が寄せられ、60点が入賞作品に選ばれました。あなたも、自分の将来をいま考えてみませんか。



第9回 (2011) 受賞作品の紹介

金融担当大臣賞

イリョウノミライ
大分県 大分県立大分鶴崎高等学校 1年
森山 心月さん

作品の内容 経済を活性化させる有望な産業として医療に着目し、医療現場が抱える課題への対応策や、産業として振興していくための施策を提案しています。地域の民間企業や教育機関などとの積極的な連携は、問題解決のために有効であると述べ、具体策として、旅行代理店と提携した観光&健康診断ツアーや、携帯電話メーカーとの提携による健康データの収集・蓄積システムの構築などを提言しています。医療の現状をよく調べ、具体的な事例を挙げて論拠としながら自分の考えを述べている点や、観光と医療の連携といった発想の新鮮さが高く評価されました。

入賞者の声 この作品は、ある企業の勇敢な取組事例にインスパイアされ手掛けたものです。作品を通じて社会の方々とかか意義の有ることを共有できたらと願っています。

文部科学大臣賞

地域経済の活性化・発展に向けて
京都府 京都府立京都すばる高等学校 3年
藤山 はるなさん

作品の内容 少子高齢化が進む日本を救うためには、地域経済を元気にする必要があり、とりわけ、地域経済の主体である中小企業の活性化が不可欠だと述べ、その手立てを、地域の信用金庫の役割に着目しながら論じています。高い技術力を持ちながら知名度の低い企業を支援するために、中小企業の海外進出や新規顧客開拓をサポートするサービスを地域の金融機関によって行うことを提案しています。学校の授業で学んだことや実際に体験したことから考察を深め、自分も将来は、地域の金融機関に就職し、地域経済の活性化と発展に貢献したいと述べるなど、自らの考えを高校生らしい素直な筆致でまとめている点が支持を集めました。

入賞者の声 信用金庫ヘイターンシップに行ったことがきっかけで、地域活性化のための良い方法はないかと考え、小論文に取り組みました。将来は信用金庫に就職し、中小企業を中心とした地域活性化に貢献したいと思います。

日本銀行総裁賞

経済を活性化させる信頼もコストのうち
東京都 桜蔭高等学校 2年
岩間 優さん

作品の内容 商品やサービスの根底にある顧客への思いが信頼できる商品やサービスを生み出しており、このことが日本の強みであるとの視点から、議論を展開しています。また、筆者は、将来、医療に携わりたいと考えており、医療分野においても、先進的な医療技術の提供に際して、患者の納得や信頼を得ていくことが重要である旨を指摘しています。そして、先人たちが築き上げてきた日本に対する信頼を受け継ぎ、信頼の経済を目指していくことで、日本経済を活性化させていきたいとの決意を述べています。日本の強みが信頼にあることを分析したうえで、それを自らの夢の実現や日本経済の活性化に活かしていくとする論述内容が高く評価されました。

入賞者の声 信頼は失いやすく、得がたいものです。だからこそ信頼は経済を活性化する要にもなると考えました。私はこれからも世界から信頼される日本であるために次世代を担うひとりとして信頼される私でありたいと思っています。

全国公民科・社会科教育研究会会長賞

立ち上り日本!震災復興と日本経済のこれから
栃木県 佐野日本大学中等教育学校 4年
天下井 恵理さん

作品の内容 リーマンショック後の経済危機や震災による影響を分析しながら、経済を活性化させる策を提案しています。東日本大震災は甚大な被害をもたらしましたが、一方で、日本の技術力の高さや先進国としての力、日本人の特性の素晴らしさに気づき、これらの中に、震災を乗り越え、経済状況を改善するヒントがあり、日本独自の技術を世界に売っていくことで新たな経済成長が望めると論じています。授業で学んだことをベースに、関連図書や新聞記事を参照しつつ日本経済が直面している問題を考察し、まとめている点が評価されました。

入賞者の声 東日本大震災は、私達日本人の意識を大きく変えました。日本のこれからを支えていく世代として、賞を励みに、一日一日精進していきたいと思っています。

金融広報中央委員会会長賞

日本のこれからを働く女性に託する
埼玉県 埼玉県立浦和第一女子高等学校 2年
有地 志帆さん

作品の内容 少子高齢化を打開する手立てとして女性のさらなる社会進出に着目し、働く女性を支援する施策として、産前産後休暇や育児休暇制度の整備、出産後の職場復帰を支援するしくみを整え、保育所や託児所を増設すべきと提案しています。筆者は、将来、産婦人科医を目指して、医療現場でも女性医師の育児休暇後の職場復帰が大きな課題になっていることから、自分の夢を実現させるとともに、こうした状況を改善する手立ても考えていきたいと述べています。社会の現実目に向け、自分の将来と関連づけながら筋道立てて論を展開し、説得力のある文章となっている点が評価のポイントとなりました。

入賞者の声 男女を理由とした偏見が減ってきている今、男性以上に様々な経験を積み、意見を持った女性は少なくないと思います。数多くの難問を抱えている今の日本を打開するためには女性の力も必要なのではないのでしょうか。

秀作

「ゆきつく先は・・・」
新潟県 新潟県立長岡高等学校 1年
川上 あずみさん

「日本の農業と経済の未来」
新潟県 新潟県立長岡高等学校 1年
細川 葵さん

「世界の貧困を解決するための経済について」
岡山県 岡山県立岡山朝日高等学校 1年
小柳 章史さん

「コンテンツ産業とビジネスモデル」
岐阜県 岐阜県立海津明誠高等学校 3年
伊藤 聖矢さん

「私のふるさとから考える明日の地域経済と将来の夢」
大分県 大分県立日田高等学校 3年
諫山 美咲さん

学校賞

大分県 大分県立大分鶴崎高等学校
京都府 京都府立京都すばる高等学校
東京都 桜蔭高等学校
栃木県 佐野日本大学中等教育学校
埼玉県 埼玉県立浦和第一女子高等学校

第9回
審査員
(敬称略)

伊藤 元重(東京大学大学院経済学研究科教授 兼任 総合研究開発機構理事) 細野 真宏(Hosono's Super School 代表) 櫻井 純子(聖学院大学非常勤講師)
佐藤 則夫(金融庁総務企画局政策課金融企画管理官) 永井 克昇(文部科学省初等中等教育局視学官) 清水頭 賢二(全国公民科・社会科教育研究会副会長)
鮎瀬 典夫(日本銀行情報サービス局長) 小林 信介(金融広報中央委員会会長)

